

がん検診受診率向上等に向けたアンケート調査結果

平成 26 年 3 月

健康づくり推進課

目 次

I	調査概要	
1	目的	1
2	調査方法	1
3	アンケート対象者	1
4	調査の流れ	1
II	調査結果	
	調査結果	2
III	参考資料	
	第1次調査結果	3
	第2次調査結果	11
	第3次調査結果	22

I 調査概要

1 目的

本市の死因の第一位はがんであり、がんの死亡率を減少させることは本市の重要な課題であり、更なるがんの予防及び早期発見の推進が必要である。

がんの早期発見には、がん検診の受診が最も重要となるが、近年、がん検診の受診率は低迷している状況にある。

そこで、保健医療分野の専門家や関係団体、市民とで、がん検診の受診率向上に向け、取り組むべき課題等を明らかにし、それぞれの立場での具体的な方策等により、更なるがん検診の受診率向上を図る。

2 調査方法

○ デルファイ法を活用したアンケート調査（1次調査～3次調査で構成）

※デルファイ法とは、メンバーがアンケートを通してそれぞれの意見を出し合い、出された結果を相互に参照し、再び意見を出し合う作業を行い意見をまとめていく方法。

3 アンケート対象者

○ 健康くまもと21推進会議委員 25名

※学識経験者1名、保健・医療・福祉関係者8名、健康くまもと21を推進する団体11名、各区市民代表者5名

4 調査の流れ

① 1次調査

がん検診受診率向上等に向けての課題等調査

調査時期 平成25年11月25日～12月5日

② 2次調査

1次調査から得られた課題（カテゴリー）20項目のうち、優先度の高いものを7項目選択し順位等調査

調査時期 平成25年12月16日～27日

③ 3次調査

2次調査で1位～7位に選ばれた項目について、再度順位づけの調査

調査時期 平成26年1月6日～16日

※ 選定基準

点数、及び課題（カテゴリー）の選定方法については以下の基準により算定を行った。

- ・ 2次調査における点数は1位7点、2位6点…7位1点とする。
- ・ 3次調査における点数は1位5点、2位4点…5位1点とする。
- ・ 2次調査から3次調査にかけて点数がなかったものについては除外。
- ・ 同点のものについては、得点人数が多いものを上位とする。

Ⅱ 調査結果

- 第1次調査の意見総数は118件。意見内容により、10の(項目)カテゴリーに分類。
- 第2次調査及び第3次調査で最終的に9つの課題(カテゴリー)が選択され、優先順位付けられた。
- 上位3位について
 - ・ 第1位は「がんに関する正しい認識と理解」。その意見としては、「がんの予防や検診の重要性に対する理解を深める必要がある」、「がんの予防には栄養、運動などの生活習慣が基本である事など具体的に周知し関心を持たせ実践へと啓発する」等。第2位は「効果的・効率的な広報」。意見としては「メディアの活用」、「対象者に合った広報媒体や配布方法」、「キャッチコピーの工夫」、「啓発ピンバッチ作成」等。第3位は「がん検診の受診方法と周知」で、「がん検診の予約方法や手順について知らない人が多い」、「検診費用について知らない人が多い」等の意見。
 - ・ 最終的に調査結果の第1位は得点が80点で総得点262点の約30%を占めた。
- その他の課題(カテゴリー)には、土日や休日での検診の機会を増やすなどの「気軽に受診できる環境づくり」や、がん撲滅運動を全市民の一大運動として位置づけ、町ぐるみで運動を展開する等の「校区単位の健康まちづくりの展開」等。

調査結果

	課題(カテゴリー)	得点人数	点数	割合
1位	がんに関する正しい認識と理解	17	80	30.5%
2位	効果的・効率的な広報	15	57	21.8%
3位	がん検診の受診方法と周知	12	39	14.9%
4位	気軽に受診できる環境づくり	16	35	13.4%
5位	校区単位の健康まちづくりの展開	11	27	10.3%
6位	職域及び保険者との連携	5	8	3.1%
7位	未受診者への受診勧奨	4	7	2.7%
8位	かかりつけ医を持つことの普及促進と連携	3	5	1.9%
9位	若い世代への教育	4	4	1.5%

※調査プロセス及び課題(カテゴリー)に対する意見については、Ⅲ参考資料にて記載。

第 1 次質問調査結果

■ 一次アンケートにおける意見のカテゴリー分類

※ 左枠の○は他のカテゴリーに共通するコメントのため再掲としております

カテゴリー名： がんに関する正しい認識と理解

がんの早期発見の重要性の理解	がんに対する理解を深めるとともに、予防、検診の重要性に対する理解を深める必要がある。
がんが発見(検診で異常が指摘)された時の対処	検診に対する恐怖など不安に思っていることに対する対策が必要である。
自分はがんにならないと信じ込んでいる人が多い	将来がんになる確率が高いことを知らない人が多い
痛みがないケースが多いため、がん検診を受診するタイミングが分からない人が多い	痛みの症状があつてからは、手遅れの場合が多いことを知らない人が多い
適切な広報(予防の周知及びがんの怖さを訴求する)	胃がんに関するヘリコバクターピロリ菌、子宮頸がんに関係するヒトパピローマウイルスについて除菌や予防接種など正しい知識をもっといただく。また、死因のトップであるがんの怖さを体験者の声などを織り交ぜた周知広報が必要である。
「がん早期発見で生存率アップ」を医療の専門家よりダイレクトに発信	いかに早期の受診が大切かをがんのステージごとの写真入りで開設したものや、治療法、ガン治療が前に比べていかに進んできているか等をがんの専門家より広報誌にて周知してもら。それをする事で身近に感じていないがんの怖さ・受診の大切さを知ってもらう。
人がなっても自分はならないだろうと思っている人が多い	心理として、自分はならないだろうと思いたい(不安も持っているが)人が多いのではないか。
健康は栄養、運動のバランスと早めの検診	日ごろの健康感、食生活のリズムでバランスよく、がんの予防は検診から。
家族の健康は食卓を囲むから！	生きる力を食卓(ちゃぶ台、テーブル等)を囲み、お互いの調子(健康)を語りあい、食物の季節や美味しさを語り、感謝や祈りを思いやり、そして予防として安心確保として検診を普通化する。
がん検診に対しての意識が低い	がんと言う疾病に対して、苦痛を伴う怖い病気であると言う意識をもっている人たちが多く、検診を避けているように思われる。
検診受診の効果。特に早期発見、癌発見実例の報道。	一般にはこのようなことの方が、受診のきっかけになると思われる。
偶数年齢の正確な周知、クーポン券の有用性	まだまだ理解されていない。
がん検診を受けない人への対応②	検診を受けないことのリスクを疫学データで明確に示す。文章ではなく、図やグラフのような目で見てすぐアピールすることがよいのではないか。
がん検診の重要性と年間を通じるアピールする必要がある	○健康に自身があり、必要性を感じない。 ○心配な時はいつでも医療機関を受診できるなど、まだ重要性が認識されていない。
心配なときは医療機関を受診できるという意見も多い	早期発見の重要性について意識が低い人が多い。
がんであると分かると怖いから	特に高齢者の場合、検診を何年も受けていない人が多い。家族、親戚にもがんにかかった人はいない。症状が出たらその時病院に行く。
自分はがんにならないという妙な自身	・本当はかかりたくないということの裏返しだと思う。 ・PR活動、がんになる割合と早期発見治療について
がんと診断されるのが怖い	・がんは治らない病気であるという認識が高く、たとえ初期でもがんと診断されるのは可能な限り避けたいと考える深層心理があるのでは。 ・「がんは2人に1人がかかる病気」と言われるよりも、「早期発見によってがんは治る確率が高い」ことを強調される方が嬉しいかも。
検診のメリットが分かりにくい	・早期発見した人の治療例などを校区ごとにもっとたくさん紹介してはどうか。身近な人の話だと訴求力も高いと思う。 ・たくさんの方が検診を受けることによるメリット(個人にとつと国全体の医療費の軽減率)のデータを示してはどうか。

○	意識調査により、効果的な受診勧奨(受診関心度別の検診案内)	仮に3タイプに分けるとします。 ①がんにかかることを心配しておらず、興味が無い層→がんにかかる要因やがんの深刻さの資料案内 ②がんにかかることを心配しているが、忙しい等受診まで至らない層→検診による有効性や安心感の資料案内 ③検診受診の必要は感じているが、受診のきっかけが無かった層→検診日程や検診実施医療機関の案内資料(手続きが簡素な感覚に) 既に①②③の資料等がありますので、対象者へのアンケート(電話、はがき)
○	フェイスブックを使った検診率向上キャンペーン	熊本市内での著名人を選定して、がん検診を実際に受けてもらい、その感想や利点を赤裸々に語ってもらい、自分のためだけでなく家族のためでもあるというストーリーです。それを読んだ市民が発言し参加して、がん検診の大切さを理解していく。
○	費用が高く、保険がきかない検診もある	コスト高により躊躇してしまうので、早期発見を逃してしまうケースもあり得る。脳ドッグやPET等、保険適用範囲を広げ、より多くの人たちが受けられる機会を増やしていただきたい。
○	20歳代、30歳代にがん検診の受診率が低い	若い世代のがん発病は、進行が早いいため早期発見が重要。若い世代にも関心を持ち受診してもらい体制とPRが必要。
○	医療機関を受診しているのに、体調の悪い時は対応してもらえない	高齢者の場合、受診している方が多いが、診療科目についての認識があまりない。症状によって病院を変えない人が多い。何等かの指導が必要。
○	検査費用がかかる	子どもに教育費がかかる子育て世代や年金暮らしでは、自覚症状がなければ、費用を出してまで検診が必要だとは考えないから。

カテゴリ名：がん検診の受診方法と周知

	がん検診には、時間がかかると思っている人が多い	実際のがん検診の手順に関する情報を知らない人が多い
	がん検診の手続きがめんどうと思っている人が多い	実際のがん検診の受診予約方法を知らない人が多い
	がん検診には費用がかかり、治療することになったら経済的にも負担になるとしている人が多い	がん検診の自己負担金について知らない人が多い。また、がんと診断された後の治療費が高額で経済的負担を考えている人が多い。
	がん検診に費用がかかる	私たちの講習会等で特定検診や乳がん等の話はさせてもらっていますが、なかなか浸透していないようです。
	がん検診の時間がかかる	皆さん忙しいようではなかなかいけないという声を聞きます。
	多忙で受診する機会が少ない	多様な職務内容や責任の重さもあり、自分の時間と検診施設の都合がなかなか折り合わない。
	費用が高く、保険がきかない検診もある	コスト高により躊躇してしまうので、早期発見を逃してしまうケースもあり得る。脳ドッグやPET等、保険適用範囲を広げ、より多くの人たちが受けられる機会を増やしていただきたい。
	大腸がん検診の実施	便潜血反応だけでないことを知らせる。
	検診の内容を苦痛と感じる人が多い	検査によっては苦痛を伴うので受診をためらう場合がある。
	どこで受ければいいのか分からない	担当医との信頼関係において、決められた所があるなら、定期的に行くことで信頼関係もできるかもしれない。
	検査費用がかかる	子どもに教育費がかかる子育て世代や年金暮らしでは、自覚症状がなければ、費用を出してまで検診が必要だとは考えないから。
○	がんが発見(検診で異常が指摘)された時の対処	検診に対する恐怖など不安に思っていることに対する対策が必要である。
○	がん検診には、時間がかかり面倒であり、仕事をしていると時間がとれない	病院の検診や受診には時間がかかる。昼間の時間帯での受診には、会社員だと職場の理解がないと受診が厳しいところもあるのではないかと。
○	偶数年齢の正確な周知、クーポン券の有効性	まだまだ理解されていない。
○	検診は分かっていたが遠いので行けない	特に高齢者の世帯で自動車がないので会場に行けない。医院を受診しているのに、症状によって専門の機関を紹介してもらって。経済的にも負担になるから。

カテゴリー名 : 未受診者への受診勧奨		
	コール・リコールの取り組み	・適切な対象者名簿の作成 ・電話、手紙等の個別に受診勧奨 ・未受診へは再度受診勧奨
	受診しやすい環境づくり③	未受診者の洗い出しと、その人たちの追加検診を。 年度末(1~3月)にもう一度呼びかけて、未受診者の受診機会を増やす。
	広報活動	1. 電話による個別検診勧奨:(例)選挙運動並に。 2. 日本がん予防協会のボランティアサポーターの協力要請。

カテゴリー名 : 効果的・効率的な広報		
	意識調査により、効果的な受診勧奨(受診関心度別の検診案内)	仮に3タイプに分けるとします。 ①がんにかかることを心配しておらず、興味が無い層→がんにかかる要因やがんの深刻さの資料案内 ②がんにかかることを心配しているが、忙しい等受診まで至らない層→検診による有効性や安心感の資料案内 ③検診受診の必要は感じているが、受診のきっかけが無かった層→検診日程や検診実施医療機関の案内資料(手続きが簡素な感覚に) 既に①②③の資料等がありますので、対象者へのアンケート(電話、はがき)
	フェイスブックを使った検診率向上キャンペーン	熊本市内での著名人を選定して、がん検診を実際に受けてもらい、その感想や利点を赤裸々に語ってもらい、自分のためだけでなく家族のためでもあるというストーリーです。 それを読んだ市民が発言し参加して、がん検診の大切さを理解していく。
	がん検診の説明会を聞いてくれた市民にピンバッジを配る	ピンバッジは特別注文で作成し、バッジをつけてる人はいろいろなところでがん検診の宣伝を市民にしてみらう。
	がん検診受診率向上キャンペーン市民応援団を組織する。	健くま21市民応援団を組織的に活用できないか?
	地域単位で意識向上を	市政だより等で、ガン検診のお知らせがあっていると思うが、すべての住民が目を通してとは言えない。熊本市全域の周知プラス細やかな地域での周知が必須。各自治会での回覧板での周知、小・中学校の保護者向けのプリント配布等で意識づけをすべき。
	がん検診受診啓発ポスターを制作し地域掲示板で常時広報	日常生活の中で「がん検診」に行った?という会話が出るようになるためには、一目でわかるポスターを貼ることも向上率アップの手立てだと思ふ。視覚的刷り込みも必要。
	メディアを利用する	熊本市独自の啓発CMを流す。地方紙での啓発。向上率アップにはあらゆる分野から周知をしていく必要がある。文字を見るのが面倒な人には資格・聴覚で簡単に入ってくるテレビ、新聞を見るついでに目にする「がん検診受診しよう!」の文字等。
	市民それぞれの生活パターンが違うことを認識した周知	熊本市民全員ががん検診受診啓発運動を同じ目線で見ることがはずないので、色々なパターンで啓発していくことも考えていかなければならない。
	今でしょ!あなたも私もがん検診!	流行語を面白く使って軽い気持ちで検診に行く。(気軽さで前へ行動)
	早い勝ち!あとは予防でグッドグッドだ!	笑顔につながる予防が肝腎。
	早寝早起き明日は検診へ	検診を定期化し安心ゲット。
	がん検診の啓発・啓蒙	市政だよりなどでお知らせされているが、まだ不十分と思われる。多くのメディアを駆使して啓蒙が必要と思われる。
	集団検診の実施日の強力な周知	直前のマナウンス、近隣での実施日に合わせた回覧板でのお知らせ。
	広報の工夫	検診の働きかけを強化しても、市民の目や耳に入らなければ効果は無い。現在の程度周知できているかを把握し、周知できない人への対策を講じる必要がある。

	20歳代、30歳代にがん検診の受診率が低い	若い世代のがん発病は、進行が早いいため早期発見が重要。若い世代にも関心を持ち受診してもらおう体制とPRが必要。
	受診する時間がないという意見が多い	平日に受診できない人も多い。日曜検診が設けられているが、日数が少なく、事前の周知が不十分と考えられる。
	検診に行く時間がないと思っている人が多い	仕事をしてフルタイムで働いていると時間の調整が難しい。
	検診を知らなかった、忘れた	市政だよりに胸部検診・胃がん検診の巡回日程がありますが、高齢者の場合見ても忘れるし、市政だよりの中身をよく見ない。検診の場合、地域で知らせる(回覧等)必要がある。
	○ 「受診の時間がない」という人への対処	土曜日または夕方の検診可能な施設の提供が必要と考える。
	○ がん検診実施機関、日時などの周知方法の検討	各区の活動を介した啓発方法の検討も必要と考える。
	○ 【未記入】	校区自治協議会ごとに話をしに行く。 市長のあいさつ文に話題にしよう。 区ごとにキャンペーンをはり、競争してもらい、発表する。
	○ がんセット検診実施機関の拡大	「熊本市ががん検診のご案内」を見るに、5つのがん検診の検査会場がそれぞれ(集団検診含め)であり対象者から見て非常に複雑に見えるのではないかと。また検診に行かない理由の中で、多忙だから何度も検診に行けないといった声も多い。一度に、かつ同じ医療機関で検診出来る検診機関の環境整備と拡大が必要ではないか。
	○ 「がん早期発見で生存率アップ」を医療の専門家よりダイレクトに発信	いかに早期の受診が大切かをガンのステージごとの写真入りで開設したものや、治療法、ガン治療が前に比べていかに進んできているか等をガンの専門家より広報誌にて周知してもらおう。それをする事で身近に感じていないがんの怖さ・受診の大切さを知ってもらおう。
	○ 検診受診の効果。特に早期発見、癌発見実例の報道。	一般にはこのようなことの方が、受診のきっかけになると思われる。
	○ がん検診を受けない人への対応①	検診を受けない人の一番の理由は「時間がない」である。その対策が必要。 ○休日、夜間の対応を工夫できないか。 ○職場のシステムとして、検診を受けることを組み込めないか。
	○ がん検診を受けない人への対応②	検診を受けないことのリスクを疫学データで明確に示す。文章ではなく、図やグラフのような目で見てすぐアピールすることがよいのではないかと。
	○ 受けやすい実施体制の整備が必要である	たまたま受けていない、時間がない、面倒くさい、理由で受診しない人多い。
	○ 広報活動	1. 電話による個別検診勧奨:(例)選挙運動並に。 2. 日本がん予防協会のボランティアサポーターの協力要請。
	○ がんと診断されるのが怖い	・がんは治らない病気であるという認識が高く、たとえ初期でもがんと診断されるのは可能な限り避けたいと考える深層心理があるのでは。 ・「がんは2人に1人がかかる病気」と言われるよりも、「早期発見によってがんは治る確率が高い」ことを強調される方が嬉しいかも。
	○ 検診のメリットが分かりにくい	・早期発見した人の治癒例などを校区ごとにもっとたくさん紹介してはどうか。身近な人の話だと訴求力も高いと思う。 ・たくさんの方が検診を受けることによるメリット(個人にとつと国全体の医療費の軽減率)のデータを示してはどうか。

カテゴリー名 : がんに関する教育		
	教育の現場(中・高校、大学等)での啓発	若い世代への教育が必要と考える。
○	小中学校の各単位PTAにお願いしてがん検診の推奨キャンペーンを展開してもらう	保護者の世代が一番該当するのではないか？子どもたちに話して、家庭での話題にしてもらう。
カテゴリー名 : 発症後の対応		
○	がんが発見(検診で異常が指摘)された時の対処	検診に対する恐怖など不安に思っていることに対する対策が必要である。
○	がん検診には費用がかかり、治療することになったら経済的にも負担になると思っている人が多い	がん検診の自己負担金について知らない人が多い。また、がんと診断された後の治療費が高額で経済的負担を考えている人が多い。
カテゴリー名 : 校区単位の健康まちづくりの展開		
	がん検診実施機関、日時などの周知方法の検討	各区の活動を介した啓発方法の検討も必要と考える。
	企業や自治会と連携した啓発	各校区自治協議会会長への働きかけにより、各町内自治会長の連携に広がり、地域定例会等でがん検診の案内(校区単位の受診率向上)
	小中学校の各単位PTAにお願いしてがん検診の推奨キャンペーンを展開してもらう	保護者の世代が一番該当するのではないか？子どもたちに話して、家庭での話題にしてもらう。
		校区自治協議会ごとに話をしに行く。 市長のあいさつ文に話題にしてもらう。 区ごとにキャンペーンをはり、競争してもらい、発表する。
	健診まちづくりの推進活性化に伴う仕掛けづくり	小学校区単位による健康づくりが一方で進んでいる、政令都市施行後各区ごとの新しいアイデアや知恵の出どころでもある。がん検診受診率向上に向けた各区の競争意識を根付かせ、インセンティブを与えていく体制を作っても良いのではないか。
	実践活動: 町ぐるみ運動の展開	1. 地婦連、JA、生協、社会福祉協議会民生委員、各種NPOと連携と協力要請。 2. 町内会、校区毎の競争、1～3位を表彰し、賞金を出す。
	受ける時間がない	特に子育て中の女性で、職場等で受ける機会のない方には、保健師さん、校区の民生児童委員、子育てネットワーク等を連携をとることが必要と思われる。
	校区単位で誘い合わせて検診を受ける仕組みがない	校区のウォーキングクラブの参加者数人に、検診と一緒に受けよう誘われたらどうですか？と尋ねてみた。知り合いから声をかけられたら行くという人、もし結果が悪くなったら嫌だからそういうのは一人で行くという人、その時になってみないと分からないという人がいた。健康(病気)情報は個人情報であり、難しいかもしれないが、何とか声かけできる体制づくりができないか。

○	地域単位で意識向上を	市政だより等で、ガン検診のお知らせがあっていると思うが、すべての住民が目を通しては言えない。熊本市全域の周知プラス細やかな地域での周知が必須。各自治会での回覧板での周知、小・中学校の保護者向けのプリント配布等で意識づけをすべき。
○	がん検診受診啓発ポスターを作製し地域掲示板で常時広報	日常生活の中で「がん検診」に行った？という会話が出るようになるためには、一目でわかるポスターを貼ることも向上率アップの手立てだと思う。視覚的刷り込みも必要。
○	集団検診の実施日の強力な周知	直前のマナウンス、近隣での実施日に合わせた回覧板でのお知らせ。
○	検診を知らなかった、忘れた	市政だよりに胸部検診・胃がん検診の巡回日程がありますが、高齢者の場合見ても忘れるし、市政だよりの中身をよく見ない。検診の場合、地域で知らせる(回覧等)必要がある。
○	検診のメリットが分かりにくい	・早期発見した人の治療例などを校区ごとにもっとたくさん紹介してはどうか。身近な人の話だと訴求力も高いと思う。 ・たくさんの方が検診を受けることによるメリット(個人にとると国全体の医療費の軽減率)のデータを示してはどうか。

カテゴリー名： 職域及び保険者との連携

○	企業や自治会と連携した啓発	各校区自治協議会会長への働きかけにより、各町内自治会長の連携に広がり、地域定例会等でがん検診の案内(校区単位の受診率向上)
○	保険者との連携	①とともに、さらにはがん検診と特定健診が同時に実施できる環境を整える。がんは怖い病気であるという認識は高いことから、がん検診を誘引とした特定健診の受診率アップにもつながり生活習慣病見直しにも直結する。
○	がん検診を受けない人への対応①	検診を受けない人の一番の理由は「時間がない」である。その対策が必要。 ○休日、夜間の対応を工夫できないか。 ○職場のシステムとして、検診を受けることを組み込めないか。
○	受診しやすい環境づくり②	社会保険被扶養者の受け入れ。 予約、受付、会計等の保険別の確認等が複雑化するが、検討する必要がある。
○	実践活動：町ぐるみ運動の展開	1. 地婦連、JA、生協、社会福祉協議会民生委員、各種NPOと連携と協力要請。 2. 町内会、校区毎の競争、1～3位を表彰し、賞金を出す。
○	受ける時間がない	特に子育て中の女性で、職場等で受ける機会のない方には、保健師さん、校区の民生児童委員、子育てネットワーク等を連携をとることが必要と思われる。

カテゴリー名： かかりつけ医を持つことの普及促進と連携

	かかりつけ医を持つことの普及促進と連携	今後の医療制度改革の中で、医療提供体制の機能分化とネットワーク化が進み、かかりつけ医にスポットが当たってくるだろう。行政と医師会及び医療保険者が連携してかかりつけ医の普及促進を図り、CKD対策の入口としてまたがん検診の受診の確認・勧奨を推進する入口となる体制を作っていけたらよい。
	医療機関でのがん検診(特に乳がん、子宮がん)の勧誘	内科系での特定検診における勧誘をお願いする。
	医療機関を受診しているので、体調の悪い時は対応してもらえる	高齢者の場合、受診している方が多いが、診療科目についての認識があまりない。症状によって病院を変えない人が多い。何等かの指導が必要。
○	担当医との信頼関係(特に女性)	最初の1回目を受けるまで勇気がいる。 女性の医者だと安心という人もいる。
○	どこで受ければいいのか分からない	担当医との信頼関係において、決められた所があるなら、定期的に行くことで信頼関係もできるかもしれない。

カテゴリ名 : 気軽に受診できる環境づくり		
	「受診の時間がない」という人への対処	土曜日または夕方の検診可能な施設の提供が必要と考える。
	がんセット検診実施機関の拡大	「熊本市がん検診のご案内」を見るに、5つのがん検診の検査会場がそれぞれ(集団検診含め)であり対象者から見ると非常に複雑に見えるのではないかと。また検診に行かない理由の中で、多忙だから何度も検診に行けないといった声も多い。一度に、かつ同じ医療機関で検診出来る検診機関の環境整備と拡大が必要ではないかと。
	保険者との連携	①とともに、さらにはがん検診と特定健診が同時に実施できる環境を整える。がんは怖い病気であるという認識は高いことから、がん検診を誘引とした特定健診の受診率アップにもつながり生活習慣病見直しにも直結する。
	がん検診には、時間がかかり面倒であり、仕事をしていると時間がとれない	病院の検診や受診には時間がかかる。昼間の時間帯での受診には、会社員だと職場の理解がないと受診が厳しいところもあるのではないかと。
	婦人科検診に対して抵抗がある	女性特有の疾病は皆知っているが、いざ診察となると年齢を重ねても抵抗感がある。
	がん検診を受けない人への対応①	検診を受けない人の一番の理由は「時間がない」である。その対策が必要。 ○休日、夜間の対応を工夫できないか。 ○職場のシステムとして、検診を受けることを組み込めないか。
	受けやすい実施体制の整備が必要である	たまたま受けていない、時間がない、面倒くさい、理由で受診しない人多い。
	受診しやすい環境づくり①	女性専用日、若年層専用日を設定し、女性や若年層の受診を促す。
	受診しやすい環境づくり②	社会保険被扶養者の受け入れ。 予約、受付、会計等の保険別の確認等が複雑化するが、検討する必要がある。
	検診は分かっていたが遠いので行けない	特に高齢者の世帯で自動車がないので会場に行けない。医院を受診しているので、症状によって専門の機関を紹介してもらおう。経済的にも負担になるから。
	担当医との信頼関係(特に女性)	最初の1回目を受けるまで勇気がいる。 女性の医者だと安心という人もいる。
	検診に行くのが面倒である	・特定検診とは別に自分で受けなければならないから。
	○ 多忙で受診する機会が少ない	多様な職務内容や責任の重さもあり、自分の時間と検診施設の都合がなかなか折り合わない。
	○ 受診する時間がないという意見が多い	平日に受診できない人も多い。日曜検診が設けられているが、日数が少なく、事前の周知が不十分と考えられる。
	○ 検診に行く時間がないと思っている人が多い	仕事をしてフルタイムで働いていると時間の調整が難しい。

第 2 次 調 査 結 果

- 1 位 (93 点) がんに関する正しい認識と理解
- 2 位 (83 点) 効果的・効率的な広報
- 3 位 (55 点) がん検診の受診方法と周知
- 4 位 (51 点) 校区単位の健康まちづくりの展開
- 5 位 (49 点) 気軽に受診できる環境づくり
- 6 位 (29 点) 若い世代への教育
- 7 位 (27 点) かかりつけ医を持つことの普及促進と連携
- 8 位 (25 点) 職域及び保険者との連携
- 9 位 (17 点) 未受診者への受診勧奨
- 9 位 (17 点) 発症後の対応

順位	得点	得点した人数	第2次調査用紙で優先順位の高かった課題
1位	93点	14人	がんに関する正しい認識と理解

<2次調査票で回答者が記載した追加コメント>

- ・がんの早期発見の重要性の理解、健康は栄養、運動のバランスと早めの検診、がん検診の重要性と年間を通じるアピールをする必要がある、心配なときは医療機関を受診できるという意見、がんと診断されるのが怖い。
- ・がんと言う疾病に対して苦痛を伴う怖い病気であるという意識を持っている人たちが多く、検診を避けているように思われる。
- ・がんに対する理解を深めるとともに、予防、検診の重要性に対する理解を深める必要がある。がんの早期発見の重要性の理解及びがんの治療がいかに進んできているかなどを周知広報が必要。
- ・検診によるメリットを目に見える形でアピールすることが重要だと思うから。たとえば、早期発見による治癒率や医療費の負担率など個人にとって、自治体にとって、国にとって、どれくらい役立つのかがわかると、時間がなくても、面倒でも、多少お金がかかっても、何とかしようと思うのでは？
- ・がんの早期発見の重要性の理解として、行政は勿論適切な広報を健康づくり推進も含めて常時行う。
- ・がんに対する予防について、栄養、運動などの生活習慣の規則正しい暮らしが基本であることを具体的に知らしめ、関心を持たせ、実践へと啓発する。
- ・がんに対する理解を深め、早期発見のためがん検診の重要性を認識してもらうため。
- ・人がなっても自分はないだろうと思っている人が多い。心理として、自分はないだろうと思いたい（不安は持っているが）人が多いのではないか。
- ・検診対象者が自らの意志で受診するよう対象者への動機付けが重要。このため、検診による早期発見・早期治療の実績、重要性、医療費軽減に繋がること等、検診のメリットについて理解を深めてもらう。
- ・今回の課題にある「がん検診の受診率向上」から考えてみると、このカテゴリーが一番にあがってくると思った。がんに対する正しい知識を得て、それぞれにあった検診を受け、早期発見に至れば多くの方が思っているがん末期の痛みを感じることなく、また、経済的負担も少なくすむというメリットをより多くの人にアピールすることが必要であると思う。検診を受ける住民が多い地域（早期発見が多い地域）とそうでない地域との対象者の10年をデータ化し疾病の変化や経済的負担等の比較をしてみると更に関心が高まるのではないかと思う。
- ・最終的に検診に至るプロセスとして、まず、がんに関する知識や認識をしっかりと理解する事が大切だと思います。また、理解しているから検診する人が多いと思います。よってカテゴリーの優先順位を、知識、身近な働きかけ、受け入れ環境、周知、コール。
- ・がんと診断されるのが怖い人、また、自分はがんにならないと思う人もいるでしょう。
がんに向き合い早期の受診が大切かをガンのステージごとの写真入りで開設したものや、治療法、ガン治療が前に比べていかに進んできているか等をガンの専門家より広報誌にて周知してもらう。それをする事で身近に感じていないがんの怖さ・受診の大切さを知ってもらう。
- ・偶数年齢の正確な周知されているが、クーポン券の有用性については、まだまだ理解されていないため、改善することでがん検診受診率向上につながるから。
- ・健康である時に健康のありがたみが分からない、特にがんに関して自分は関係ないと思う人も多

い。

- ・世代にかかわらず、洋風化した食生活習慣から、がんは近年の死因第一位であり、また医療費の負担も強いられることなど手遅れによる怖さを織り交ぜ、一方、早期発見で完治できるという予防意識を、若い世代への教育と併せ訴える必要がある。
- ・早期発見の重要性を認識し、早期治療をすると生存率も高くなり、治療費も高額にならなくて済むことなど、がんに関する正しい認識と理解が必要と思います。
- ・がんであるとわかると怖い。特に高齢者の場合、検診を何年も受けていない人が多い。家族、親戚にもがんにかかった人はいない。症状が出たらその時病院に行く。
- ・自分はがんにならないという妙な自信。本当はかかりたくないということの裏返しだと思う。PR活動、がんになる割合と早期発見治療について。
- ・痛みがないケースが多いため、がん検診を受診するタイミングが分からない人が多い。痛みの症状があつてからは、手遅れの場合が多いことを知らない人が多い。正しい知識を理解することで検診受診につながる。

順位	得点	得点した人数	第2次調査用紙で優先順位の高かった課題
2位	83点	15人	効果的・効率的な広報

< 2次調査票で回答者が記載した追加コメント >

- ・地域単位で意識向上、市民それぞれの生活パターンが違うことを認識した周知、集団健診の実施日の強力な周知
- ・今まで通りの方法を踏襲したのでは、今まで通りの結果しか出ない。
 - ① メディアをもっと活用する。
 - ② 市民応援団を組織する。
 - ③ ピンバッジを配る、売ることでも資金を作るのもいいと思う。
 - ④ 人の目耳をひきつけるキャッチコピーやポスターも。
 - ⑤ 校区自治協議会、町内会毎に競争を行わせる。
- ・市政だよりなどで検診のお知らせがあつているが、すべての住民が目を通してはいえない。特に高齢者の場合忘れやすいし、会場までは遠くていけない人も多い。自治会での回覧板での周知が必要。
- ・熊本市独自の啓発CMを流すことを検討したほうがよいと思う。なぜ、熊本市ががん検診を進めるのか、どれくらい本気で取り組んでいるのかがわかる内容で。中・高年にはテレビや新聞で。(ちなみに、主婦は本誌よりも「スパイス」「リビング」をよく読んでいます。) 若者にはインターネットで。ドキッと脅す内容ではなく、ワクワクになるようなキャッチコピーで。
- ・がん検診がなぜ必要かを啓発するために、その意義が理解がなされること。その為の方策を効果的で効率的な広報をあらゆる現代機器(メディアなど)を駆使して、生活変容に働きかける広報。
- ・市政だよりなどでがん検診の啓発などは行っているが、すべての住民が目を通していないと思われ自治会での回覧や小・中学校の保護者へのプリント配布など、地域単位での周知などが必要と思う。
- ・意識調査により、効果的な受診勧奨(受診関心度別の検診案内)が必要ではないか。各ターゲットに届くような広報が必要。
- ・検診のメリットや気軽に受診できる環境について、より効果・効率的な広報により対象者に知っ

てもらうことが必要。地域、企業と連携を図るなど広報を工夫する。

- ・がん検診の受診率を向上させるためのキャンペーンは行政にとっても市民にとっても最重要課題ととらえていいのではないか。メディアの利用（TV・ラジオのCM、資料案内・ポスター・アナウンス・回覧板等）も目、耳に印象付けるような言葉（流行語や俳句）、音（歌）を使っていくと効果的になるのではないか。また、検診車が来ている時の広報者の案内はメロディーを流しアナウンスすればいいと思う。
- ・熊本市内での著名人を選定して、がん検診を実際に受けてもらい、その感想や利点を赤裸々に語ってもらい、自分のためだけでなく家族のためでもあるというストーリーです。それを読んだ市民が発言し参加して、がん検診の大切さを理解していく。
- ・確実に検診案内資料が渡ることと対象者に合った資料の配布と思います。市政だより等で、ガン検診のお知らせがあっていると思うが、すべての住民が目を通してはいえない。熊本市全域の周知プラス細やかな地域での周知が必須。各自治会での回覧板での周知もありますが、小・中学校、高校の保護者向けのプリント配布が意識づけや周知になると思います。電話やアンケート調査を行い適切な対象者名簿を作成し、以下の①～③から対象者に合った資料を案内する。

- ① がんにかかる要因やがんの深刻さの資料案内
- ② 検診による有効性や安心感の資料案内
- ③ 検診日程や検診実施医療機関の案内資料（手続きが簡素な感覚に）

また①～③をセットにした案内資料の充実を図る。

- ・メディアを利用した熊本市独自の啓発CMを流すことで、向上率アップにつながる。文字を見るのが面倒な人には視覚・聴覚で簡単に入ってくるテレビを見ることで効率的なため。
- ・「受診の時間がない」という人への対処として、土曜日または夕方の検診可能な施設の提供があるとがん検診受診向上につながるから。
- ・がんに関する正しい認識と理解は、口コミを初め何らかの広報媒体の中で浸透して行くものである。多くのチャンネル、メディア、行政広報誌等予算との関係性はあるが、広告会社の知恵を借りまた著名人を使うのも結構なことである。また市長が先頭に立ち、メディア等で訴えることも効果があるのではないだろうか。
- ・メディアを利用する。
熊本市独自の啓発CMを流す。地方紙での啓発。向上率アップにはあらゆる分野から周知をしていく必要がある。文字を見るのが面倒な人には資格・聴覚で簡単に入ってくるテレビ、新聞を見るついでに目にする「がん検診受診をしよう！」の文字等。
- ・今でしょ！あなたも私もがん検診！
流行語を面白く使って軽い気持ちで検診に行く。（気軽さで前へ行動）
広報は、印象に残る言葉、合言葉みたいなものがあると良いと思う。
- ・検診の働きかけを強化しても、市民の目や耳に入らなければ効果はないと考えられます。現在の広報がどの程度周知されているのかを広報と同時に把握する工夫が必要と考えます。それをもとに、周知していない人への対策を講じることが重要と考えます。
- ・若い世代のがん発症は、進行が早いいため早期発見が重要です。若い世代にも関心を持ち、受診してもらう体制とPRが必要です。
(日本がん予防協会のボランティアサポーターの協力要請も含む)
- ・早期の受診がいかに大切かを広報誌にて周知してもらう。

(がんが発見された時の対処などを含めて)

- ・熊本市独自の啓発 CM を流す。また、地方紙での啓発などを考えていくことも重要と考えます。

順位	得点	得点した人数	第2次調査用紙で優先順位の高かった課題
3位	55点	13人	がん検診の受診方法と周知

<2次調査票で回答者が記載した追加コメント>

- ・がん検診には、時間や費用がかかる、手続きが面倒と思っている人が多い。またどこで受ければいいのか分からない。
- ・受診しない人の理由のひとつに面倒と思っている又時間がかかると思っている。従って
 - ① 受診方法を判りやすく報せる。
 - ② 時間を要領よく効率よく実施する工夫、待ち時間を少なくする方法。
 - ③ 効果的効率的広報（メディア活用、市民応援団の組織など）。
 - ④ 婦人ががん検診に対する配慮、個々のがん検診が別々の日にあると受ける人は面倒で時間がない。まとめて総合がん検診として実施する方法を工夫する。
- ・がん検診の自己負担金について知らない人が多い。またがんと診断された後の治療費が高額で経済的負担を考える人が多い。
- ・がん検診の手順、受診の方法を知らない人が多いし、検診に費用がかかり経済的にも負担になると思っている人が多い。
- ・効果的・効率的な広報と同様に、受診方法や内容などをもっとわかりやすく伝えることが必要だと思う。現在の周知では、自分が必要だと思うときには情報がなく、それを調べて実際に検診に行くまでの道筋が複雑で面倒になってしまう。市政だよりを年に一回でも全面で健康まちづくり特集にして、がん検診の受け方などを詳しく記載して、保存版として配布してはどうか？
- ・がん検診の手順に関する情報がまず第一に必要で、それらの受診の手順などわかりやすく説明し周知を図る。
- ・がんに対する正しい認識を知り、早期発見、早期治療による健康管理を具体例を示しながら検診へと導く。
- ・がん検診の手続き方法がわからない人が多く、又検診には時間がかかったり、検診費用が高いと思っている人が多いため。
- ・多忙で受診する機会が少ない。多様な職務内容や責任の重さもあり、自分の時間と検診施設の都合がなかなか折り合わない。
- ・がん検診の手続き、所要時間、費用等について知らない人が多い。
- ・がん検診は費用も時間もかかる。体力的にも負担がかかり、年をとったものには疲れる等良い印象が無い。また、がんと診断されてしまうと自分自身のことのみならず、家族、仕事等、今後の心配、経済的な問題など考えなければならないと思うと気が重くなり、とりあえず今は良いといひ避けてしまいがちになる。任意で受けるがん検診ももう少し費用が安ければ早く受診できたと思う人たちが多いのではないかと思う。
- ・検診までの手順や医療費を把握したいと思います。

実際のがん検診の予約方法や手順に関する情報を知らない人が多い。
がん検診の自己負担金について知らない人が多い。また、がんと診断された後の治療費が高額で

経済的負担を考えている人が多い。

- ・がん検診には、時間がかかると思っている人が多いと思われるので、実際のがん検診の手順に関する情報を周知することで、がん検診受診向上につながるから。
 - ・がんに関する正しい認識と理解のカテゴリー、また、気軽に受診できる環境づくりのカテゴリー、職域及び保険者等・連携した取り組みのカテゴリーをあわせて、がん検診は気軽にできるものだという認識を深めるための周知が必要だと思います。
- また、企業側にも、職員が一人でも病欠になると企業の運営・経営にもマイナスになることを理解し、がん検診を推奨する風土が必要だと思います。

順位	得点	得点した人数	第2次調査用紙で優先順位の高かった課題
4位	51点	14人	校区単位の健康まちづくりの展開

<2次調査票で回答者が記載した追加コメント>

- ・がん検診実施機関、日時などの周知方法の検討
 - ・企業や自治会と連携した啓発。
 - ・実践活動、町ぐるみ運動の展開。
 - ・小中学校の各単位PTAにお願いしてがん検診の推奨キャンペーンの展開。
 - ・がん撲滅運動を全市民の一大運動と位置づける。
 - ① 健康まちづくりの推進活性化に伴う仕掛けづくり 市内5つの区が独自性を発揮し、競争させる。
 - ② 町内会、校区毎で競争させ、受診率の向上したところを表彰する。
 - ③ 婦人会、JA、生協、社協、民生委員、各種NPOもこぞって盛り上げる。
 - ・校区の中心である自治協議会への働きかけにより、各種団体との連携による地域定例会などでがん検診の受診率の向上を目指す。
 - ・身近な人の呼びかけで重い腰を上げる人もいると思う。防災は自助・共助・公助の順で呼びかけられている。健康も自助・共助・公助を呼びかけてはどうだろうか？
 - ・健康まちづくりの推進活性化に伴う仕掛け作りは非常に重要。きめ細かに対応でき、住民が主体となるまちづくりが実感できる。
 - ・校区自治協議会への働きかけで、町内自治会との連携により地域定例会などで啓発・活動がスムーズにできる。
 - ・がん検診の周知や受診勧奨には自治会や企業と連携した活動が効果的。
 - ・校区単位の展開は顔が分かるというメリットが大きい。加えて、単位組織が多くあっても顔を知っている者同志というケースが良くあると思うので、そのようなメリットを活かして意識を向上させ検診を促していくことは効果的であると思う。
 - ・保護者の世代が一番該当するのではないかな？子どもたちに話して、家庭での話題にしてもらう。
 - ・身近な人や各種団体からの働きかけが受け入れやすいと思います。
- 各校区自治協議会会長への働きかけにより、各町内自治会長の連携に広がり、地域定例会等でのがん検診の案内（校区単位の受診率向上）。
- 特に子育て中の女性で、職場等で受ける機会のない方には、保健師さん、校区の民生児童委員、子育てネットワーク等の連携をとることが必要と思われる。

- ・小学校区単位による健康づくりが一方で進んでいる、政令都市施行後各区ごとの新しいアイデアや知恵の出どころでもある。自治会、PTA等との関係によりがん検診受診率向上に向けた各区の競争意識を根付かせ、インセンティブを与え応えていく体制を作っても良いのではないか。
- ・がん検診の推奨のためには、校区ごとに保健師と地域の自治会長などと一緒に、若い世代（PTAなど子育ての世代、青少協、体協、消防団など）へのPRを校区のイベントなどの時にPRを展開する必要があると思います。
- ・校区住民が声をかけ合い、がん検診をすすめ、一緒に受診するなどの環境づくりが必要だと思います。
- ・小中学校の各単位PTAにお願いしてがん検診の推奨キャンペーンを展開してもらう
- ・保護者の世代が一番該当するのではないか？子どもたちに話して、家庭での話題にしてもらう。
- ・がんに限らず、健康づくりは家族で考えることが大切だと思う。
- ・すべての住民が市政だよりも目を通す工夫が必要と考えます。各自治会での回覧板での周知、小・中学校の保護者向けのプリント配布等での意識づけが重要と考えます。（町ぐるみ運動の展開を含む）

順位	得点	得点した人数	第2次調査用紙で優先順位の高かった課題
5位	49点	14人	気軽に受診できる環境づくり

<2次調査票で回答者が記載した追加コメント>

- ・受診の時間がないという人への対処。
- ・検診に行くのが面倒である。
- ・受けやすい実施体制の整備が必要。
- ・がん検診実施機関の拡大、受診時間、期日の拡大（休日、夜間などの工夫）、婦人がん検診に対する配慮、個々のがん検診が別々の日にあると受ける人は面倒で時間がない。まとめて総合がん検診として実施する方法を工夫する。
- ・社会保険被扶養者の受け入れ。
- ・予約、受付、会計等の保険別の確認等が複雑化するが検討する必要がある。
- ・検診を受けない人の理由は、時間がない、面倒くさいなどで受診しない人が多い。特に子育て中の女性、職場などで受ける機会のない方について、受けやすい実施体制の整備が必要である。
- ・思い立ったときに、すっといける受診機関があるとよいと思う。土曜日または夕方に検診可能な施設の提供があるとよい。
- ・受診する時間がない方のため、受診しやすい環境を整備する必要があるため。
- ・対象者に受診する意志があれば、より気軽に受診できる環境を作れば受診者が増える。受診者に検診の時間、場所、機会の選択肢を増やして受診しやすい環境を作る。
- ・未受診者の洗い出しと、その人たちの追加検診を。年度末（1～3月）にもう一度呼びかけて、未受診者の受診機会を増やす。
- ・気軽に受診できる環境につながると思います。

「熊本市がん検診のご案内」を見るに、5つのがん検診の検査会場がそれぞれ（集団検診含め）であり対象者から見て非常に複雑に見えるのではないか。また検診に行かない理由の中で、多忙だから何度も検診に行けないといった声も多い。一度に、かつ同じ医療機関で検診出来る検診機関の環境整備と拡大が必要ではないか。

担当医との信頼関係（特に女性）女性の医者だと安心という人もいる。

- ・がん検診を受けない人への対応①として、検診を受けない人の一番の理由は「時間がない」であるため、以下の対策を行うことでがん検診受診向上につながるから。

○休日、夜間の対応を工夫できないか。

○職場のシステムとして、検診を受けることを組み込めないか（検診休暇を作るなど）。

- ・休日、または夕方に検診実施可能医療機関の体制づくりが必要と考えます。また、特定健診と同時に受診できる体制づくりの検討が必要と考えます。

順位	得点	得点した人数	第2次調査用紙で優先順位の高かった課題
6位	29点	8人	若い世代への教育

< 2次調査票で回答者が記載した追加コメント >

- ・教育の現場（小、中、高、大学、専門学校など）で、必ず単位として取り組み、生活習慣として栄養・運動・休養のバランスの重要性を食育基本で示す。
- ・更には、保護者、PTA、校区単位の役員などに積極的に定期的に事業計画を入れ込み、実践する方向性を確立する。（若い世代の生活習慣は食に限らず想像以上に乱れている。）
- ・タバコの有害性など、若い世代への教育がじみながらも効果が上がっていると思う。小さい頃から検診で早期発見すれば、治癒率が高いことを刷り込むことが有効だと思う。
- ・教育現場、高校で検診の必要性の啓発。小・中学校のPTA等にごがん検診の推奨キャンペーンを展開してもらおう。
- ・婦人のがんなど若い世代の発生頻度が拡大している。しかし、そのことを自覚しない若い世代が多い。
 - ① 教育の現場（中、高、大学など）での啓発。
 - ② PTA や同窓会などでの啓発。
 - ③ 若い世代には若い世代による呼びかけが効果的。
- ・若い世代への教育が必要と考える。
- ・学校教育の現場で、がんに関する正しい認識と理解を深めさせておくことが大切。
- ・子育て、仕事と一番多忙な時だけに、がんから遠い存在と思っている人たちに検診を勧めるだけでは、受診率が上がらないのは想像できる。実際、若い世代でも罹患者が少なからずいると言う事、がんも若い時からアルコール摂取や偏った食生活等を考えて生活していればかかりにくい病気も中にはあると言う事を教育立場で（子どもや保護者）話を展開すると良い。
- ・小中学校の各単位PTAにお願いしてがん検診の推奨キャンペーンを展開してもらおう。
- ・保護者の世代が一番該当するのではないかな？子どもたちに話して、家庭での話題にしてもらおう。
- ・若いうちから、がんについての知識を学ぶことはとても大切だと思う。

順位	得点	得点した人数	第2次調査用紙で優先順位の高かった課題
7位	27点	10人	かかりつけ医を持つことの普及促進と連携

< 2次調査票で回答者が記載した追加コメント >

- ・医療機関でのがん検診の勧誘、担当医との信頼関係が必要。

- ・担当医との信頼関係において、決められた所があるなら、定期的に行くことで信頼関係もできるかもしれない。
- ・今後の医療体制の中で、かかりつけ医が必要である。担当医と信頼関係を築き、診療科目外、検診などについても、アドバイスを受けやすい関係を作る必要がある。
- ・行政と医師会及び医療保険者が連携してかかりつけ医の普及促進を図り、がん検診の確認、勧奨を推進する体制ができる。
- ・行政と医師会及び医療保険者が連携してかかりつけ医の普及促進を図り、CKD 対策の入口として又がん検診の受診の確認・勧奨を推進する入口となる体制ができればいいのではないかと。
- ・かかりつけ医を持つことと気軽に受診できる環境づくりは繋がっていると思う。かかりつけ医を持つことは体調に変化がある時いつでも受診し、気軽に相談にのってもらえる。がんに関する正しい認識と理解、がん検診の受診方法や内容等の周知、がんと診断された後の対応に関しても比較的相談しやすいのではないかと。
- ・医療機関でのがん検診（特に乳がん、子宮がん）を勧誘し、内科系での特定検診における勧誘もお願いすることでがん検診受診向上につながるから。
- ・今後の医療制度改革の中で、医療提供体制の機能分化とネットワーク化が進み、かかりつけ医にスポットが当たってくるだろう。行政と医師会及び医療保険者が連携してかかりつけ医の普及促進を図り、CKD対策の入口としてまたがん検診の受診の確認・勧奨を推進する入口となる体制を作っていけたらよい。
- ・何でも相談できるかかりつけ医を持つことは、がん検診受診をはじめ、他の病気の重症化予防にもつながる。

順位	得点	得点した人数	第2次調査用紙で優先順位の高かった課題
8位	25点	7人	職域及び保険者との連携

< 2次調査票で回答者が記載した追加コメント >

- ・保険者との連携、受診しやすい環境づくり、受ける時間がない。
- ・中央区のように旧熊本市街地区は勤労者が多いと思われるので職域や保険者との連携が必要と考える。
 - ① 社会保険被保険者を地域で受け入れる体制を組む。
 - ② がん検診と特定健診のコラボレーションが大切。
 - ③ 具体的な対象者の把握を。
- ・実践活動として町ぐるみ運動の展開は、これからの高齢社会には地域の活性化と健康予防として町ぐるみの育成は頼りになる。受診しやすい環境づくりは日頃の町ぐるみ活動として今後非常に意義大きい。
- ・がん検診を受けない人への対応①
 - たとえば、職場のシステムとして、検診を受けることを組み込めないか。
- ・企業や自治会、保険者と連携した活動が効果的。
- ・実際の検診が受けやすい取り組みとします。
 - 検診を受けない人の一番の理由は「時間がない」である。その対策が必要。
 - 休日、夜間の対応を工夫できないか。

○職場のシステムとして、検診を受けることを組み込めないか。

- ・被用者保険適用、被扶養者のがん検診受診率も恐らく低いと思う。ここは、がん検診と特定健診が同時に実施できる環境を整えることで、相乗効果に期待する。

がんは怖い病気であるという認識は他の病気に比べ高いことから、がん検診を誘引とした特定健診の受診率アップにもつながり生活習慣病見直しにも直結する。

順位	得点	得点した人数	第2次調査用紙で優先順位の高かった課題
9位	17点	7人	未受診者への受診勧奨

<2次調査票で回答者が記載した追加コメント>

- ・とにかく一人でも二人でも受診者を増やすこと。
 - ① 未受診者（対象者）の出来るだけ正確に把握。
 - ② その人たちが受けやすいように年度末にもう一度呼びかけて受診機会を作る。
 - ③ その呼びかけを若いボランティア活動の協力を得て行う（日本がん予防協会のボランティア（学生）サポーターが応援体制をとっている）。
- ・未受診者の洗い出しとその人たちの追加検診を。年度末（1～3月）にもう一度呼びかけて、未受診者の受診機会を増やす。
- ・未受診者への再度受診の呼びかけを行い受診機会を増やす。
- ・不快に思われないようなコール・リコールの取り組み。※効率的・効果的な広報とリンクさせる。
- ・未受診者を洗い出して、個別に働きかけることが有効だと思う。
- ・コール・リコールの取り組みが検診率アップになると思います。
- ・未受診者の洗い出しと、その人たちの追加検診を。
- ・未受診者に個別に当たり、受診勧奨することが最も効果のある手法に間違いのない、併せて受診しない理由等を聞き出すこともこれからのがん検診強化の参考になる。
電話勧奨か、戸別訪問か、予算と人材の問題が別途発生する。

順位	得点	得点した人数	第2次調査用紙で優先順位の高かった課題
9位	17点	5人	発症後の対応

<2次調査票で回答者が記載した追加コメント>

- ・検診に対する恐怖などの不安に思っていることに対する対策が非常に重要。これらが信頼が高ければ、予防としての検診が積極的参加につながると思われる。
- ・がん検診を受けない理由の一つとして、がんを発見された時の対応を心配している人が多いのは現実だと思う。自分自身もがんと診断された瞬間はどう思うだろうかと考えることがある。自身のこと、家庭のこと、仕事のこと、地域のこと、友人のこと等々思い出すと寂しさと不安が一瞬にして広がり何も手につかなくなってしまうのではないかと思うとまた不安になってくる。家族の応援のみならず、ケースワーカー・ソーシャルワーカー等の充実が望まれる。
- ・がん検診の自己負担金について知らない人が多い。また、がんと診断された後の治療費が高額で経済的負担を考えている人が多い。
- ・がんが発見された時の精神的なフォロー体制（がんサロンなどの紹介など）。

がん治療の費用についてなどに不安を持っている方が多い。高額医療などの制度があることなど周知することも必要かと思えます。

- がんが発見（検診で異常が指摘）された時の対処。
- 検診に対する恐怖など不安に思っていることに対する対策が必要である。
- がんと闘っていく心構えなど、心のケアが大切と思う。

第 3 次質問調査結果

第3次調査結果

(1) 第3次調査結果

	課題(カテゴリー)	得点人数	点数
1位	がんに関する正しい認識と理解	17	80
2位	効果的・効率的な広報	15	57
3位	がん検診の受診方法と周知	12	39
4位	気軽に受診できる環境づくり	16	35
5位	校区単位の健康まちづくりの展開	11	27
6位	職域及び保険者との連携	5	8
7位	未受診者への受診勧奨	4	7
8位	かかりつけ医を持つことの普及促進と連携	3	5
9位	若い世代への教育	4	4

(2) 第3次調査 選定理由についての追加コメント

第2次調査による上記1, 2, 3位はそれぞれ重要で、独立項目となっておりますが、認識と理解は主に効果的な広報・周知によってもたらされるものであり、一体的に議論し並行的に進めるべきものと思います。よって今回の1位は第2次調査2, 3位を包含した1位とします。

第2のステップとして認識・理解の後は受診環境の整備を徹底するべきです、第3に全市民目線で捉えた時に地域・職域保険者の相互連携が出来る環境をもっと進めるべきであります。そのことは自ずと校区単位の健康まちづくりに繋がっていくものと考えます。

1位、2位は得点、得点した人数から見ても多くの方が上位に格付けしており、そのままの順位としました。3位から5位まではほぼ同得点ですが、3位のコメントは2位の「効果的・・広報」や5位の「気軽に受診できる・・」に重なるものが多く、4位の「校区単位・・」は5位の「気軽に受診できる・・」に一部含まれると考えられるので、順位を入れ替え、6位「教育」を繰り上げています。

「がん受診率の向上」のためには、これら課題の結果を有効に利用するとともに、県民・市民の目に触れ、記憶に留まり行動に移すまでには時間がかかると思います。あらゆるメディアを通して、上位の結果のみならず、より具体的にアピールできるようにすることが必要と思われます。

「早期発見！早期治療！がんは今や治る病気！」という意識付けが大切だと思います。熊本市におけるがん検診の受診率の向上を期待しています。

基本は、がんの認識と理解が前提にあると思います。第2次調査結果に於いて2位の効果的・効率的な

広報でメディアを使った検診啓発も大事ですが、その告知内容が1位のがんの認識と理解につながり、がん検診が何故必要かを啓発する内容なら効果はあると思います。よって⑤校区自治協議会や小・中学校、高校の保護者向けに案内は賛同で3位にしました。どちらかと言うと身近な方や団体からの案内

が浸透すると思いますので4位の校区単位を2位にしました。

また、がん検診に積極的な方は、熊本市のホームページで5つのがん検診を案内するページを閲覧するでしょう。5つのマトリック表や無料クーポン券のページも用意されています。

まとめますとがん検診の重要性を理解する（早期発見、早期治療、生存率、治療費）。

5位が気軽に受診できる環境づくり（がん検診実施期間の拡大、受診時間、期日の拡大（休日、夜間、婦人がん検診の配慮等の整備））。

基本は、がんの認識と理解が前提にあると思います。第2次調査結果に於いて2位の効果的・効率的な

広報でメディアを使った検診啓発も大事ですが、その告知内容が1位のがんの認識と理解につながり、がん検診が何故必要かを啓発する内容なら効果はあると思います。よって⑤校区自治協議会や小・中学校、高校の保護者向けに案内は賛同で3位にしました。どちらかと言うと身近な方や団体からの案内

が浸透すると思いますので4位の校区単位を2位にしました。

また、がん検診に積極的な方は、熊本市のホームページで5つのがん検診を案内するページを閲覧するでしょう。5つのマトリック表や無料クーポン券のページも用意されています。

まとめますとがん検診の重要性を理解する（早期発見、早期治療、生存率、治療費）。

5位が気軽に受診できる環境づくり（がん検診実施期間の拡大、受診時間、期日の拡大（休日、夜間、婦人がん検診の配慮等の整備））。

- ・まず、正しい知識が必要だと考える。
- ・検診を受けるのに際して、どうすればよいか分かっていないと、敷居が高いのではないか。
- ・複雑な手続きや、連絡が必要であると、検診を受ける気持ちを後退させる。
- ・検診のために仕事を休むことには抵抗がある。職場側から促すことが必要。
- ・関心のある人は受診率は当然高い。無関心な人にどう勧めていくかが問題。

1年を1クールと考えるならば、「がんに関する正しい認識と見解」→「効果的・効率的な広報」→「校区単位の健康まちづくりの展開」→「がん検診の受診方法と周知」→「気軽に受診できる環境づくり」の順で推進活動をするのが望ましい。

がん検診の受診率向上には、がん検診に対する正しい知識を得るため、方策として、効果的・効率的な広報で、その意義を住民に理解するよう周知する必要がある。

広報誌には届けられるのですが、もっと読みたくなる、読みやすい表現の工夫もいるかと思

います。

- (1) がんの早期発見の重要性の理解を深めるとともに、がんの治療がいかに進んでいるかなど、周知広報が必要。早期発見であれば、痛みを感じることなく、また経済的負担も少なくてすむメリットを多くの人にアピールすることが必要。
- (2) 市独自の啓発 CM、メディアを活用。
- (3) 校区自治協議会への働きかけによる、校区単位の受診率の向上を目指す。特に子育て中の女性で職場等で受ける機会のない方に。保健師、民生児童委員、子育てネットワーク等との連携が必要。
- (4) かかりつけ医を持つことにより、体調に変化があるときいつでも受診し、専門外についても気軽に相談でき、診断された後も専門病院へ紹介してもらえる。
- (5) 職域及び保険者による、被扶養者への受診勧奨。

- ・ 広報を度々行わないと周知できない（受診方法を含めて）。
- ・ 未受診者への勧奨により、多くの発見ができる。
- ・ 肺がん、胃がんも将来的には個別で、検診できる環境になれば向上するだろう。
- ・ がんに関する正しい認識ができるのか懐疑的。

2次調査結果の9項目はいずれも重要事項で甲乙つけ難いが、要するに今まで通りだち今までと同じ、新しい発想、イノベーションが必要。「がんに関する正しい認識と理解」は当然大前提だが、具体的にそれを進めるために、「効果的・効率的な広報」を1位とした。あとは先ず、未受診者の洗い直し、ターゲットを定めて受診勧奨を行うのは共通に伝えること、あとは老若男女、組織や団体をフルに活用して熊本市の一大市民運動としたい。お互い顔の知れた校区単位からと考えて2位とした。

まずは、周知・広報が必要であり、受診しやすい環境が重要と思うから。